



# 金屋町通信

発行元：

金屋町まちづくり協議会

発行責任者：般若陽子

編集責任者：般若慎一郎

上の写真は千保川にかかる鳳鳴橋に立っている鳳凰です。高岡の地名は、中国の詩経の一節「鳳凰鳴けり彼の高き岡に・・・」に由来していますが、昭和59年に橋の改修工事が行なわれた時に彫刻のあるまちづくり事業の一環として、芸術院会員 富永直樹作の鳳凰像が設置されたものです。これによって見たまんまの「ほうめい橋」になりました。

## 金屋開町400年記念！

### 11月8日にふいご祭り

金屋町開町400年記念行事の一つとしてふいご祭りの復活が予定されています。11月8日に有儀正八幡宮において神事を行い、以後は毎年行われることになる見込みです。

そこで、鞆祭り（ふいごまつり）とはなんだろう？とインターネットで調べてみたところ、おおむね以下のようなことだそうです。



鞆（ふいご）とは、金屋町の人ならよくご存知と思いますが、古代より金属の鑄造などに欠く事のできなかつた道具で、炉に空気を送り込み火力を増すために使われた手動送風機です。

鞆祭りとは、鑄物師・鍛冶屋・刀工・風呂屋などが、火を扱う商売の守護神であるお稲荷様に鞆作業の安全を祈願する行事です。地域によっては踏鞆祭（たたらまつり）とも呼ばれます。

昔は、鞆祭りの11月8日には、火を扱う商売の人々は仕事を休んで稲荷神社に詣でてお札を受け、そして、鞆を清めて注連縄を張り、お米、お神酒（おみき）、お餅、みかんなどをお供えし、夕方からは門前で、お供え物のお下がりのお餅やミカンを撒いて近所の子供達に振舞うなどしました。

鞆祭りでミカンを撒くのは、鞆祭りのミカンを食べると風邪やはしかにかからないと信じられて

いたため、そのため江戸時代、鞆祭りのミカンの需要は相当なものだったようです（紀伊国屋文左衛門という有名な商人は、鞆祭りに使うためのミカンを経州から江戸へ大量に運んだ事で大もうけしたと云われています）。

## 金屋町いきいきサロン

### ひな祭りの集い

旧中町・東町・上町 民生委員 般若陽子

3月2日、小雪の舞う中をみなさまお元気で集まって下さいました。お雛様を眺めた後、まず桜餅といちご大福でお抹茶をいただき、ほっと一息ついたところで生田流正派の小島寿子（雅楽寿＝うたとし）さんのお琴演奏を聴きました。



雅な調べにうっとりした後順番に爪をつけてお琴にさわり、体験もしました。そして会員手作りの甘〜いぜんざいに舌鼓、おなかも満腹です。民生委員、福祉活動員、婦人会などが中心になって、地域の人たちが元気で楽しく過ごせるように、年6回つどいをしています。4月からは金屋本町の方々もご一緒の仲間になります。皆様よろしくお願ひ致します。

さてこの度の大震災を考えると、地域で協力しあって高齢者や歩行困難の方など、みんなで支えあうことの大切さを改めて痛感するところです。

## まちづくりとは？①

町づくりとは、具体的に言うとどんなことなのか？

それは住民がいつまでも住み続けたいと思う町、新たに住宅を求める



人が住んでみたいと思う町、そこに滞在していることが、そこを歩いていることが、何ということなく楽しかったり、気持ちが癒されたりする、そんな町を作ることではないでしょうか。

### まちづくりには文化が必要

それは単に物理的住環境が優れているだけの町ではありません。物理的に優れていることに加えて、優れた文化が必要です。

金屋町の現状はどうでしょう？うなぎの寝床と言われる住宅は優れた住環境とは言えないでしょう。しかし鑄物の町として400年の歴史に裏打ちされた文化があります。鑄物資料館に収蔵している鑄物製作用具は、国の民族文化財に登録されるぐらいに評価されていますし、伝統的で美しい町並みは、国の重要伝統的建造物群に選定されるべきとの評価を得ています。

### 鑄物の文化が金屋町の強み

物理的環境は、お金をかければある程度まで改善可能です。しかし歴史とか文化というものはお金では買えないし、長い年月をかけないと作れないものです。

その手に入れることが困難な歴史と文化を金屋町は既に持っていることが、金屋町のまちづくりにとって強みです。

現在のまちづくり協議会を発展させて自治会の中にまちづくり会議を設置し、住環境改善研究会、空家・駐車場対策委員会などを置いて物理的環境改善を講じていけば、とても良い町になると思いませんか。

いま全国的に、地方都市では町なかで少子高齢化と過疎化が進行しています。金屋町も例外ではなく、人口減少と同時に空家と駐車場が着実に増えています。今まちづくりに動いていかないと、孫やひ孫の時代に金屋町はどうなっているでしょうか？と想像すると空恐ろしい気がします。

## 金屋町開町400年記念シリーズ 金屋町と高岡鑄物の歴史

### ⑨貸し鍋屋

鍋は炊飯のために庶民にと

っても必需品だったが、昔は高価でした。そこで今で言うレンタル業の貸し鍋屋があり、借りるの

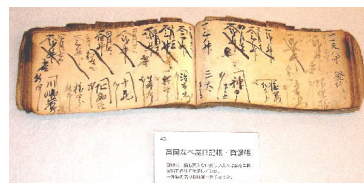


が一般的だったそうです。1年分のレンタル料を年末に集金するというやり方ですが、必ずしも現金ではなく農家であれば米で支払いをし、一升鍋なら1年間で米1升

程度だったそうです。

家庭用の鍋ばかりでなく、業務用で大型の塩釜やにしん釜などもレンタルしていた。借りた鍋が破損したら新品と交換するなどは、現代のレンタル業と同じです。

鑄物資料館に貸し鍋帖が展示されています。



## 金屋学講座のご案内

テーマ：開町400年からのまちづくり

講師：宮崎一郎さん（北前船新総曲輪夢倶楽部、富山県観光・地域振興局観光課課長補佐）

とき：4月22日（金）夜7時より9時頃まで

ところ：金屋町公民館1階大ホール

みなさまお誘いあわせの上、ぜひご参集ください